

令和6年度 公益財団法人国際エメックスセンター事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

(1) 里海づくりの推進

「里海づくり」を当センターの主要事業として位置づけ、調査研究及び研修の実施及び活動に関する支援等の事業を実施するとともに、当センターを中心とする「里海」に関連した行政、研究者、事業者、市民等の各主体間の有機的なネットワークを構築し、国際的かつ学際的な交流を推進した。

① 環境省「令和の里海づくりモデル事業」への参画

環境省が行う「令和6年度藻場・干潟の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環モデルの構築等業務」を受託し、環境省が選定したモデル事業実施団体(19団体)に対して、当センターが有する研究者等による伴走支援をするとともに、環境省が目指すべき今後の里海づくりのあり方に関する検討、里海づくりに取り組むネットワークの形成、里海づくりに関する情報発信を行った。

ア 藻場・干潟の保全・再生等と地域資源利活用による好循環モデル事業の運営及び伴走支援

環境省において選定したモデル事業実施団体(19団体)と請負契約を締結するとともに、実施団体ごとにモデル事業の実施地域、内容等に専門的知見を有する1～2名の有識者(アドバイザー)、及び事務局((公財)国際エメックスセンター)職員1名からなる「支援委員会」を設置した。

支援委員会は、実施団体と協議のうえ、モデル事業実施期間中に活動現場の視察を1～3回実施し、事業の進捗状況、問題点を確認し、対策の助言等の支援(以下「伴走支援」という)を行った。

図 1-1 令和6年度「令和の里海づくり」モデル事業実施団体の活動地域

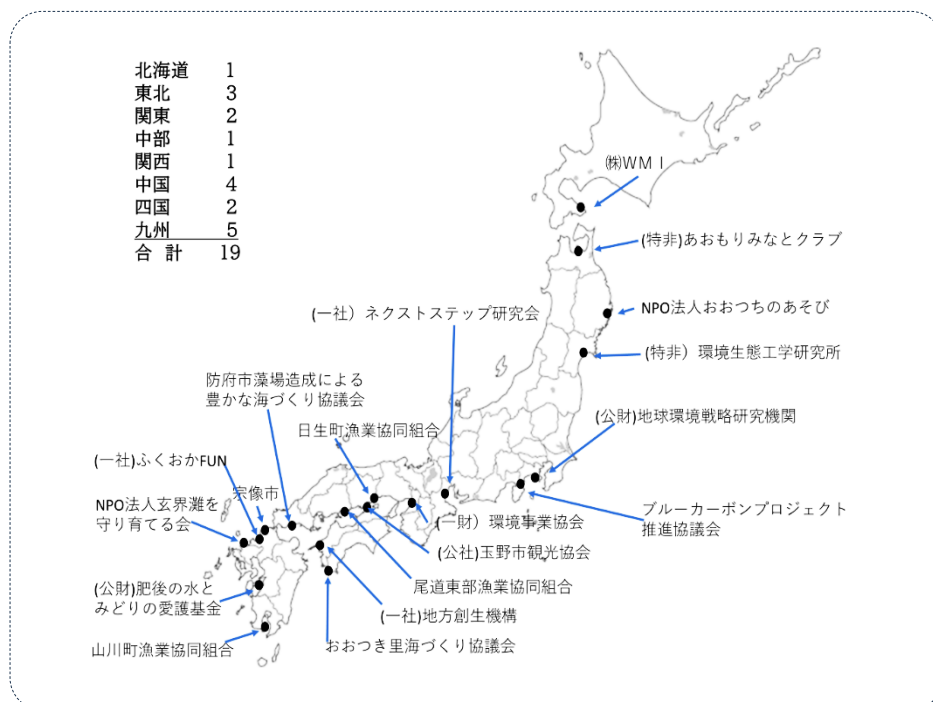


図1-2 伴走支援の状況(1)

NP0法人おおつちのあそび(岩手県上閉伊郡)

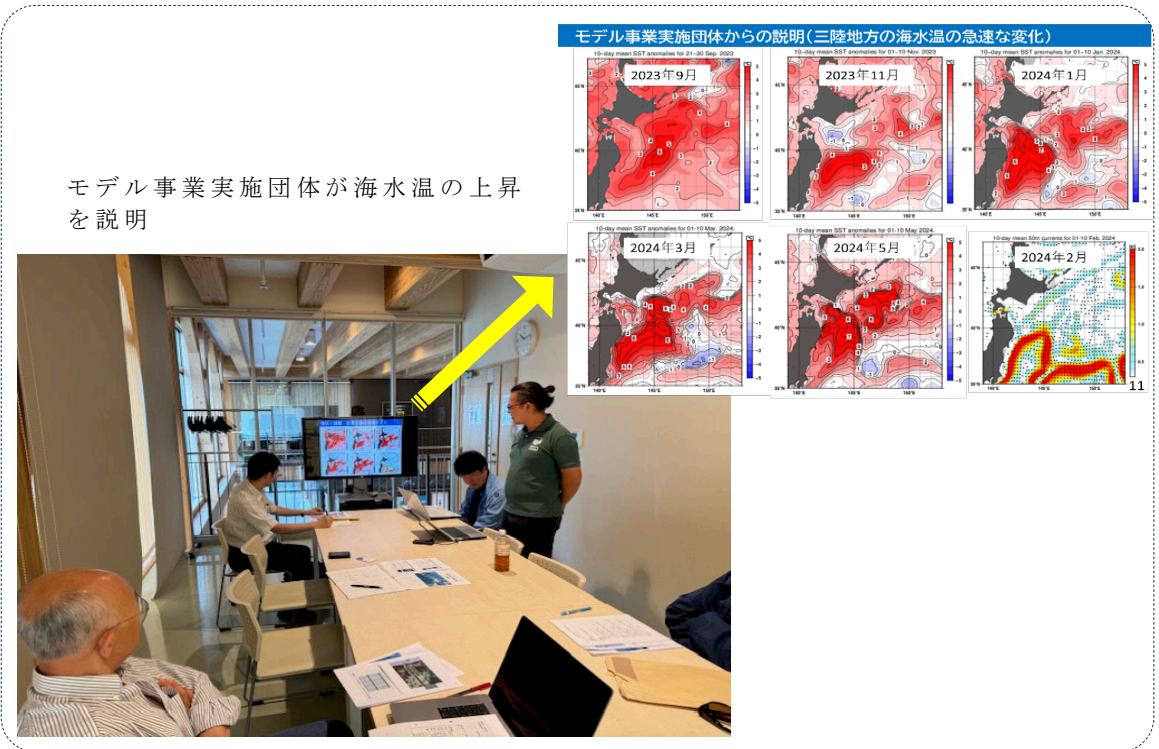
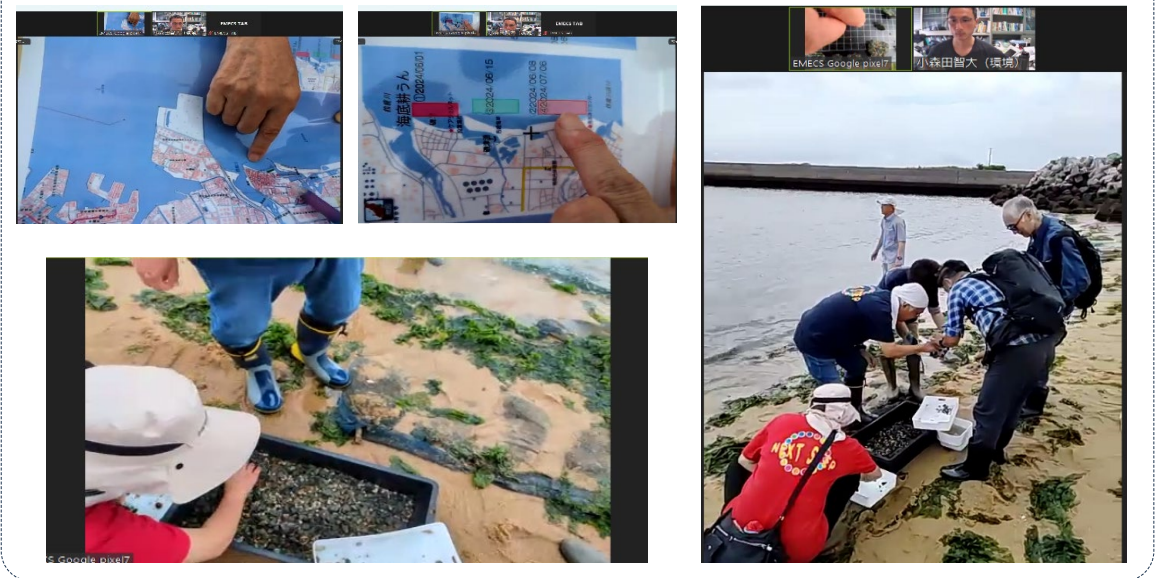


図1-3 伴走支援の状況(2)

一般社団法人ネクストステップ研究会(三重県四日市市)

アドバイザーが活動場所の海岸を現地調査して科学的視点から助言を実施



1) 事業推進委員会の運営

藻場・干潟の保全・再生と地域資源の利活用に関する7名の有識者で構成される「事業推進委員会」を設置して、支援委員会を構成するアドバイザーの選任を行うとともに、モデル事業の進捗管理、支援委員会の活動状況の確認、伴走支援のあり方に関する審議を行うなど本業務の全体統括を担い、合計で4回開催した。

表1-1 事業推進委員会委員名簿

(50音順) ◎：委員長、○：副委員長

| 区分 | 氏名 | 職名(※) |
|----|--------|---|
| 委員 | 今井 一郎○ | 北海道大学名誉教授 |
| | 内山 雄介 | 神戸大学大学院工学研究科 教授 |
| | 岡田 光正 | 広島大学名誉教授、放送大学名誉教授 |
| | 川井 浩史 | 神戸大学内海環境教育研究センター 特命教授・名誉教授 |
| | 小松 輝久◎ | 日仏海洋学会 会長 |
| | 松田 治 | 広島大学名誉教授、特定非営利活動法人里海づくり研究会議 理事長、特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議 理事長 |
| | 森本 昭彦 | 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授 |
| 顧問 | 鈴木 基之 | 東京大学名誉教授 |
| | 小林 悦夫 | 公益財団法人地球環境戦略研究機関 参与 |

※：職名は令和6年4月30日時点のもの

2) 持続可能な里海づくりに向けたセミナーの開催

これからの里海づくりにおいては、藻場・干潟等の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環を形成し、地域の多様な主体が参画・連携する持続可能な活動が求められている。このため、里海づくりの現場から要望のあった①藻場づくり、②里海づくりと観光、③多様な主体との連携の3点に着目して企画した。過年度の令和の里海づくり実施団体、関係機関、関係団体にも周知して、下記のとおり開催した。

日時：令和7年1月28日(火) 13:30～15:40

場所：スペースアルファ三宮 大会議室

(神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザビル6階)

開催形式：対面、オンライン併用のハイブリッド形式

主催：環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海域環境管理室

(事務局：(公財)国際エメックスセンター)

参加者：モデル事業実施団体 23名 (うちWeb参加16名)

関係機関、関係団体 20名 (Web参加)

環境省、アドバイザー等 5名 (うちWeb参加1名)

内容：

環境省挨拶

水谷 好洋

環境省 水・大気環境局海洋環境課長

講演

(各講演30分、質疑応答10分)



藻場づくりにあたっての現場の見方・考え方

講師：吉田 吾郎

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所(長崎) 副部長



地域資源を活用した持続可能な里海づくりと観光

講師：加藤 久美

和歌山大学観光学部 教授



里海づくりと地域循環共生圏に向けたプラットフォームづくり

講師：岩井 克巳

株式会社漁師鮮度 代表取締役

情報提供

「令和7年度のモデル事業の方向性について」

環境省 水・大気環境局海洋環境課 海域環境管理室

図1-4 持続可能な里海づくりに向けたセミナーの開催状況



3) 令和6年度「令和の里海づくり」モデル事業成果発表会の開催

モデル事業実施団体による成果発表会を対面方式で以下により開催し、各モデル事業のノウハウや成果の情報交換・共有を図るとともに、里海づくりに取り組むネットワークの構築を推進した。

成果発表会は、アドバイザー、関係団体の出席のもと、冒頭に各実施団体が1分のフラッシュ発表をした後に、実施団体(19団体)を3グループに分けて、ポスター発表形式で行った。

日 時：令和7年2月27日(木) 13:00～18:00

場 所：ラッセホール 2階 ブランシュローズ
(神戸市中央区中山手通 4-10-8)

開催形式：対面によるポスター発表形式

出席者：モデル事業実施団体：34名

環境省・地方環境事務所：8名（うちWeb2名）

アドバイザー：6名

関係団体：8名 計56名

表1-2 令和6年度「令和の里海づくりモデル事業」成果発表会のプログラム※

| 事 項 | 時 間 | 備 考 |
|----------------------|--------------------|---------------------------------------|
| あいさつ | 13:00～13:05 | 環境省 |
| 進行説明 | 13:05～13:10 | |
| フラッシュ発表(1分/団体) | 13:10～13:30 | 事業実施報告書に添付した事業概要を記載したパワーポイント(1枚もの)で説明 |
| ポスター発表(グループ1) | 13:30～14:30 | 7 団体 |
| 休憩 | 14:30～14:40 | |
| ポスター発表(グループ2) | 14:40～15:40 | 6 団体 |
| 休憩 | 15:40～15:50 | |
| ポスター発表(グループ3) | 15:50～16:50 | 6 団体 |
| 自由交流時間 | 16:50～17:50 | |
| まとめ、閉会 | 17:50～18:00 | まとめ：松田アドバイザー、閉会挨拶：環境省 |

※：上記の3つのグループのポスター発表の時間帯で、環境省は自然共生サイト登録に関する相談コーナーを設置し、以下の3団体が相談した。

(相談コーナーは事前予約制)

13:30～14:00 公益財団法人地球環境戦略研究機関

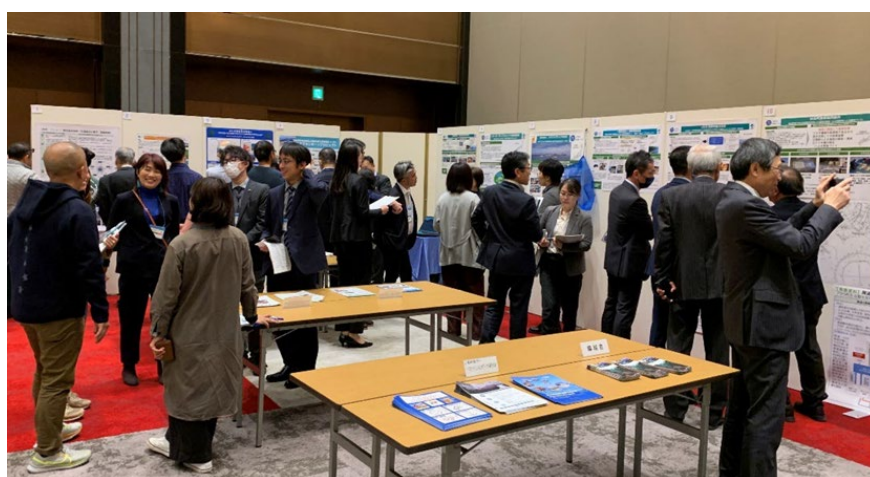
14:40～15:10 NPO法人おおつちのあそび

15:50～16:20 特定非営利活動法人環境生態工学研究所

図1-5 フラッシュ発表の状況



図1-6 ポスター発表の状況



イ 里海づくりに関する今後の施策の検討

令和の里海づくりモデル事業やこれまで実施してきた里海づくりの推進に関する施策、里海に関する地域における取組状況等を踏まえ、今後の施策等について検討し、「今後の里海づくりのあり方に関する提言」をまとめた。検討に当たっては、里海づくりに関係する有識者で構成する「今後の里海づくりのあり方検討会」を設け、準備会を含めて4回開催した。

表1-4 今後の里海づくりのあり方に関する検討会委員

(50 音順) ◎：座長 ○：副座長

| 氏名 | 所属・職名 |
|---------|--|
| 一見 和彦 | 香川大学農学部 瀬戸内圏研究センター、教授 |
| 岩井 克巳 | NPO 法人海辺つくり研究会、監事 NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター、専務理事 |
| 内山 雄介 ◎ | 神戸大学大学院 工学研究科 市民工学専攻、教授 |
| 岡田 知也 | 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室、室長 |
| 加藤 久美 | 和歌山大学 観光学部 観光学科、教授 |

| | |
|---------|--|
| 東 博紀 | 国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境保全領域（海域環境研究室） 上級主幹研究員 |
| 森田 香菜子 | 慶應義塾大学 経済学部、准教授 |
| 森本 昭彦 ○ | 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター、副センター長・教授 |
| 山口 敦子 | 長崎大学 大学院 総合生産科学研究科、教授 |
| 吉田 吾郎 | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所（長崎） 副部長 |

図1-7 今後の里海づくりのあり方に関する提言の概要

今後の里海づくりのあり方に関する提言（概要版）

（2025年3月 今後の里海づくりのあり方検討会）

＜里海を取り巻く経緯と課題＞ ※里海とは「入手が加わるにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」

- ◆ 高度経済成長期に、開発による自然環境の劣化や消失、汚濁負荷の増大、水質の悪化
- ◆ 水質保全を目的とした排水規制等の施策による水質の改善を経て豊かな海（里海）づくりへ
- ◆ 令和4年度から令和の里海づくりモデル事業により、現状の把握や課題、事例の収集と地域支援を実施
- ◆ 社会構造や価値観の変化、気候変動、場の消失等を踏まえた複数施策への統合的アプローチの必要性

▶▶ これらの状況を踏まえ環境省が取り組むべき「今後の里海づくりのあり方」を検討

環境省が目指すべき「里海づくり」の理念と指針

- 1) 良好な海域環境の保全・再生・創出
- 2) 地域資源の適切な利活用による保全と好循環の形成
- 3) 地域の歴史、伝統、文化等や自主性を重んじた多様な主体の参加と連携

提言1：良好な里海の保全・再生・創出

- ・ 良好な海洋環境の「保全」、劣化した場の「再生」、失われた場の「創出」
- ・ 森里川海の連携
- ・ 科学技術的、社会経済的にも実現可能かつ具体的、定量的な目標設定
- ・ 自然の変動やかく乱を受けても自律的に回復、存続できる
- ・ 海域環境や生態学に関する調査とモニタリング、アセスメントによる評価と順応的管理
- ・ 沿岸域の地域づくりの一環として取り組む
- ・ ウェルビーイング/高い生活の質にも貢献
- ・ 研究分野の進展と成果の実装

提言2：里海における資源の利活用と好循環の形成

- ・ 一般の市民が日々の生活のなかで里海づくりに触れ、参加できる機会を通じた生活での利活用
- ・ 地域や国内外を問わずレクリエーション、アクティビティ等の観光での利活用
- ・ 地域の歴史や伝統文化に配慮した農林漁業での利活用
- ・ 海洋リテラシーの充実をはかる海洋教育の実践を通じた海洋教育での利活用

提言3：地域の自主性を重んじた多様な主体の参加と連携

- ・ 多様な主体者との連携のためのネットワークの構築と支援
- ・ 関係省庁、関係団体とのシナジー発揮、連携の強化

モデル構築による地域の取組支援のみでなく、科学的知見の充実、情報共有の場づくりなどを通じて、戦略的に「令和の里海づくり」を推進

(2) 第14回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス14）の開催準備等

第27回科学・政策委員会の開催

第28回理事会（令和6年3月12日開催）にて、エメックス会議の開催時期・開催地・開催方法を含めた抜本的な見直しを行うことを決定したことを受けて、第27回科学・政策委員会を開催し、第14回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス14）の開催準備を一旦白紙に戻すことを確認するとともに、「里海づくり」等のエメックスの新事業について報告を行った。

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和6（2024）年5月1日（水）17：00～18：00（日本時間） |
| 開催方法 | オンライン |
| 協議事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ エメックス会議開催の抜本的な見直しについて ・ エメックス新事業について |

(3) 高校生環境保全研究発表会の開催

次世代の海洋環境保全を担う人材育成をより一層推進するため、「令和6年度高校生海洋環境保全研究発表会」を実施し、高校生が行っている沿岸域や流域の環境保全に資する研究活動について専門家が助言・指導を行う指導会及び

その成果を公開で発表する研究発表会の2回に分けて開催した。

《令和6年度高校生海洋環境保全研究発表会の概要》

| | |
|------------|--|
| 指導会 | 開催日時：令和6(2024)年11月3日(日・祝)10:00～16:10 開催場所：三宮研修センター(兵庫県神戸市中央区) 開催方法：非公開、対面方式 |
| 研究発表会 | 開催日時：令和7(2025)年1月25日(土)10:00～15:10 開催場所：スペースアルファ三宮 特大会議室(兵庫県神戸市中央区) 開催方法：公開、ハイブリッド方式(会場参加およびオンライン参加) |
| 審査機関 | 高校生海洋環境保全研究発表指導委員会 |
| 参加校数 | 総応募件数8校9件を全て選定 ※研究発表会では1校が都合により参加辞退 |
| 発表指導委員 | 川井 浩史(神戸大学内海域環境教育研究センター 特命教授) 今井 一郎(北海道大学 名誉教授) 張 勁(富山大学学術研究部理学系 教授) 森本 昭彦(愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授) 内山 雄介(神戸大学大学院工学研究科 教授) |
| 研究発表会プログラム | 1 開会挨拶 (川井 浩史 座長) 2 研究発表 ① 愛媛県立八幡浜高校、八幡浜工業高校、川之石高等学校 「八幡浜の海は、私たちが守ります スポGOMI活動から未低利用魚の利用」 ②兵庫県立尼崎高等学校 「大阪湾のプランクトン観察 — 尼崎運河と大阪湾の比較 —」 ③宮城県南三陸高等学校 「松原海岸における干潟環境の改善と生物相変化」 ④神奈川県立横須賀高等学校(横山 心大さん) 「瀬戸内海における養殖産業により生じたプラスチックゴミの漂流及び漂着に関する検討」 ⑤神奈川県立横須賀高等学校(手嶋 夏生さん) 「東京湾で油流出した場合の油の挙動」 ⑥鹿児島県立鹿児島水産高等学校 「おとひめの結プロジェクト ～南薩地域の藻場を再生するための研究について～」 ⑦広島県立広島国泰寺高等学校 「赤潮発生における栄養塩類濃度が与える影響について」 ⑧学校法人森教育学園岡山学芸館高等学校 「アマモ種子長期保存の可能性 ～アマモ場再生に向けて～」 3 審査 |

4 表彰式

最優秀賞：神奈川県立横須賀高等学校
横山心大さん

優秀賞：宮城県南三陸高等学校

優秀賞：鹿児島県立鹿児島水産高等学校

5 講評

川井座長から授賞理由を説明後、審査員4名が講評

6 閉会挨拶（理事長 岡田 光正）

<参加校の皆さんと発表指導員の先生>



(4) 国内外機関との連携

① 国際機関との連携

ア PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

PEMSEA*の非政府パートナーとして、「第16回EAS（東アジア海域）パートナーシップ会議」に参加し、東アジア海域の持続可能な開発と沿岸環境管理に関する情報共有等を通じて連携強化を図った。

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和6（2024）年7月23日（火）～24日（水）2日間 |
| 開催方法 | オンライン |
| 出席者 | PEMSEA評議員、政府パートナー、非政府パートナー |
| 協議事項 | ・EASコンGRESS2024開催に関する協議 ・SDS-SEA（東アジア海域持続可能な開発戦略）実施計画 |

| | |
|--|------------------------------------|
| | 2023- 2027進捗報告 ・ブルーカーボンプログラムの現状 |
|--|------------------------------------|

※ Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia

設立：1994年 国連開発計画(UNDP)により設立（日本は2002年から参加）

構成：【政府パートナー】

カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、北朝鮮、
フィリピン、韓国、シンガポール、東ティモール、ベトナム

【非政府パートナー(主なもの)】

国際エメックスセンター(EMECS)、海洋政策研究所(OPRI)、北
西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)、PEMSEA地方政府、ネッ
トワーク(PNLG) 他

イ EGSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

EGSA※との情報交換等を通して連携強化を図った。

※ Estuarine & Coastal Sciences Association（河口域・沿岸科学学会）

設立：1971年 イギリスのハル大学に事務局を設置

ウ MEDCOAST（地中海沿岸）財団との連携

MEDCOAST財団※との情報交換等を通して連携強化を図った。

※ Mediterranean Coastal Foundation

設立：1993年 トルコのアンカラに事務局を設置

エ SDGs目標14ボランティア・コミットメントによる発信

平成31(2019)年2月に登録したボランティア・コミットメント※に基づき、令和6(2024)年3月から令和7(2025)年2月までの活動結果として、エメックス14開催に関する協議、環境省・水大気環境局との「里海づくりの推進に関する協定書」締結、令和6年度高校生海洋環境保全研究発表会開催について、国連ホームページに登録した。

※ エメックス SDGs目標14 ボランティア・コミットメント要旨

エメックス会議を通じて閉鎖性海域の環境保全に係る課題を解決するための知的ネットワークを構築し、閉鎖性海域の統合的管理の重要性を世界に発信する。

② 国内機関との連携

ア (特非)里海づくり研究会議との連携

(特非)里海づくり研究会議(理事長 松田 治)が開催する里海づくりに取り組む人々が一堂に集う場として、「第4回里海カンファレンス」(開催地:高知県幡多郡大月町)を同研究会議、現地事務局となる(特非)黒潮実感センターおよび当センターの共催により開催した。

| | |
|------|---|
| 開催期間 | 令和6(2024)年11月16日(土)~17日(日)2日間 |
| 開催場所 | 1日目:大月町農村環境改善センター(高知県幡多郡大月町) 2日目:柏島(高知県幡多郡大月町) |
| 主催 | (特非)里海づくり研究会議、(特非)黒潮実感センター、(公財)国際エメックスセンター |

| | |
|-------|--|
| 参加人数 | 130人（主催者発表） |
| プログラム | <p>11月16日（土）：セッション1：自立・自走を目指す里海づくり セッション2：里海教育・人材育成 セッション3：里海と災害リスクマネジメント ※各セッション後に総合討論</p> <p>11月17日（日）：エクスカージョン（柏島）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>神田優（黒潮実感センター理事長）による講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>総合討論</p> </div> </div> |

イ 西日本国際環境協力機関連絡会との連携



西日本にある国際的な環境協力を行う機関の連絡会である西日本国際環境協力機関のワーキンググループ・メンバーとして、「第32回西日本国際環境協力機関連絡会」に参加し、情報交換、意見交換を行った。

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和6（2024）年12月9日（月）14：00～16：00 |
| 開催場所 | 神戸市中央区文化センター 1102会議室 |
| 参加者 | <p><ワーキンググループ・メンバー></p> <p>（公財）国際湖沼環境委員会(ILEC) （公財）環日本海環境協力センター(NPEC) （公財）国際エメックスセンター(EMECS) （公財）国際環境技術移転センター(ICETT) （公財）地球環境センター(GEC)</p> <p><オブザーバー・メンバー></p> <p>（一財）海外産業人材育成協会 関西研修センター (AOTS/KKC) アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) （公財）地球環境戦略研究機関 関西研究センター (IGES Kansai) （独）国際協力機構 中部センター(JICA/KSIC) （公財）地球環境産業技術研究機構(RITE) 国際連合環境計画 国際環境技術センター (UNEP-IETC)</p> |
| 議事 | <ul style="list-style-type: none"> ・各機関の2023年度及び2024年度の事業紹介 ・高齢者雇用安定法による65歳までの雇用確保措置等について ・理事会及び評議員会における会議運営方法について ・特定費用準備資金の保有状況について |

（5）調査研究事業

① 若手研究者活動支援制度の実施

閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成することを目的に、令和6年度若手研究者研究活動支援制度を実施した。本制度では、助成金と客員研究員による助言・指導が一体となった研究支援を行っており、若手研究者とのネットワーク構築の場としての役割も担っている。

| | |
|--------|---|
| 対象者 | 国内の研究機関等に所属し、令和6年4月1日時点で満45歳以下、もしくは、博士号の学位取得から10年以内の若手研究者 |
| 助成期間 | 令和6年4月1日～令和7年3月31日 |
| 助成金額 | 審査により決定（1件あたり150万円が限度） |
| 審査機関 | 客員研究員で構成する研究員会議 |
| 採択件数 | 応募総数10件から7件を採択（採択者の詳細は下表のとおり） |
| 主な研究支援 | <p>研究テーマによって割り当てた担当指導員（客員研究員）が若手研究者と年3回の指導会を実施した（現地・Web開催）。</p> <p>令和6年7月 キックオフ指導会 令和6年11月 中間報告会事前指導会 令和6年12月5日（月） 中間報告会 令和7年3月 最終報告事前指導会 （令和7年5月20日（火） 公開成果報告会）</p> <p style="text-align: center;">《中間報告会の様子》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>発表する若手研究者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>全体写真</p> </div> </div> |

《令和6年度採択案件》

| 所属・職名・氏名 | 研究テーマ |
|---|---|
| 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 伊佐田智規 【継続3年】 | アマモ場におけるブルーカーボン貯留経路としての透明細胞外重合物質粒子および粒状有機炭素の変動要因の解明 |
| 東京大学 大気海洋研究所 助教 板倉 光 【継続3年】 | 有明海における遡河回遊魚エツの産卵・回遊生態の解明と保全に関する総合的研究(その3) |
| 水産研究・教育機構 水産技術研究所 廿日市拠点 研究員 岡村 知海 【継続3年】 | 餌料環境の変化が二枚貝浮遊幼生に及ぼす影響の解明と浮遊幼生の着底評価指標の開発 |
| 東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授 中村 隆志 【継続2年】 | 陸域—海域—生態系統合モデルを用いた宮城県志津川湾デジタルツインの開発(その2) |
| 富山大学 学術研究部 理学系 | 炭素収支の解明を主とした沿岸域の炭 |

| | |
|--|---|
| 特命助教 小林 英貴【継続2年】 | 素・栄養塩の動態把握：富山湾をモデルケースとして |
| 香川大学 瀬戸内圏研究センター 特命助教 中國 正寿【新規】 | タイ湾奥部におけるミドリヤコウチュウの生態と赤潮発生に伴う環境変化の解明 |
| 熊本県立大学大学院 環境共生学 研究科環境共生学専攻 博士後期 課程大学院生 尾崎 竜也【新規】 | 潮汐と海底湧水を反映した干潟の基礎生産過程：機械学習と連続観測によるアプローチ |

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等が進んだ湾奥部の環境の再生を目指して尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証実験施設について、継続的に活用するための維持管理を行った。

2 情報収集整備活用事業

(1) インターネットによる情報発信等

ホームページやインスタグラム・Facebookを活用したタイムリーな情報発信を行った。

(2) エメックスニュースレター等による情報発信

国際エメックスセンターの活動状況等を掲載した「エメックスニュースレター第48号」（日本語・英語）を発行し、情報発信を行った。

また、メール配信システムを利用したメールマガジンについては、日本語版を第177号から第187号（11回）を配信し、イベント等の開催案内などの情報発信を行った。令和6年度は国際イベント等の実施が無かったため、英語版の配信はなかった。

(3) パンフレットによる情報発信

広報アドバイザー会議での意見を踏まえ、国際エメックスセンターの調査研究事業や人材育成・普及啓発事業などの取り組みについて分かりやすく紹介するようにした他、紙媒体を廃止して、電子媒体に特化したパンフレットに見直した。

(4) 広報アドバイザー会議の開催

各種の広報媒体の特性を活かして、国際エメックスセンターの広報活動を効果的に推進するため、令和2年度に創設した広報アドバイザー会議を令和6年9月5日(木)に開催した。ホームページの国内外のアクセス数の増加やパンフレットのリニューアルに対する意見のほか、若手研究者研究活動支援制度（前述）及び高校生海洋環境保全研究発表会（後述）の人材育成事業のPRに関する助言を受けて、令和6年度の事業実施に反映した。

3 人材育成・普及啓発事業

(1) 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等が進んだ湾奥部の環境の再生を目指して尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証実験施設について、継続的な活用のための維持管理を行った。

(2) 環境イベントへの出展等

令和6年11月17日(日)に開催された「地域課題解決に取り組む高校生サミット～兵庫から日本を考える～(第14回瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム)」において、当センターの活動状況や閉鎖性海域の環境情報等を発信した。